



★在スラバヤ日系企業リーガル・コンサルテーション窓口開催のご案内

1 1 月後半の午後、本年度第 3 回目の日本人弁護士による無料相談会を総領事館で実施予定です。「TMI 総合法律事務所」から藏田弁護士に出席頂き、企業法務に関連した相談者からの様々な質問にお答えいただきます。（1 社 1 時間程度）。

相談を希望される方は、当館日系企業相談窓口（ business-support@sb.mofa.go.jp ）（矢澤領事）までご連絡ください。

★「東ジャワ州ンガウィ県における診療所建設及び母子保健向上計画」完成式典の実施

9 月 4 日（火）、東ジャワ州ンガウィ県において平成 2 8 年度に日本政府が草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みで支援した診療所建設及び母子保健向上計画の完成式が執り行われ、谷総領事が出席しました。本事業は、同県パロン郡ババダン村に診療所（助産師居住スペース含む）を建設すると共に医療機材（ベッド、保育器、酸素ボンベ、吸引分娩、分娩セット等）を整備し、同村における乳幼児の無料検診等の適切な保健活動を実施するための保健ボランティアに対する研修、栄養知識に関する講演等を実施するものです。式典には被供与団体であるジャリン・ヌサ財団のスウド・バワジール代表を始め、ブディ・スリスティヨノ同県知事、オニー・アンワル同副県知事らが同席した他、ババダン村住民 1 0 0 名以上が揃って総領事の来訪を歓迎しました。各出席者より本件支援への謝意が伝えられた他、谷総領事は、日イ 6 0 周年の記念ロゴが同県の高校生によるものである旨言及した上で、本事業が母子保健を中心とする社会福祉を始め将来の当地社会の発展並びに両国関係深化のシンボルとなるよう期待している旨述べました。



歓迎を受ける谷総領事

（左：スウド代表、左から 5 番目：谷総領事、左から 6 番目
（中央：ブディ県知事、右：オニー副県知事）



60 周年ロゴと共に笑顔を見せるブディ
県知事（左）と谷総領事（右）



完成した診療所外観

★平成 3 0 年度国費留学生に対する渡日前オリエンテーション・壮行会の実施

9 月 1 9 日（水）、総領事公邸にて、9・1 0 月より日本での留学を開始する予定の平成 3 0 年度国費外国人留学生（日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、研究留学生、学部留学生）に対する渡日前オリエンテーション・壮行会を実施し、スラバヤ・マランを中心とした東ジャワ州選抜の計 2 6 名が参加しました。冒頭、谷総領事より、「インドネシアからの国費留学生の多くが東ジャワ州から選出されていることを嬉しく思う。渡日に際し多くの不安があると思うが、今日の諸先輩方のアドバイスを参考に、安心して日本に向け旅立っていただきたい。また、本年は日インドネシア国交樹立 6 0 周年という特別な節目を迎える。日本で大いに学び、今後両国の架け橋として活躍いただきたい。」旨挨拶しました。その後、各留学生から自己紹介が行われ、元日本留学生

協会（プルサダ）東ジャワ支部会員のマレタニンティヤス女史（アイルランガ大学歯学部講師、広島大学出身）、シャルル・マルタ・ドウィスシロ氏（アイルランガ大学人文学部日本研究学科講師、岩手大学及び広島大学出身）より、日本での生活事情、留学生としての心構え等についての体験談の共有が行われました。



総領事を囲んだ参加者集合写真

★JASSO日本留学フェア2018の開催

9月29日（土）、スラバヤ市内スクエア・ボールルームにて学生支援機構（JASSO）主催、元日本留学生協会（プルサダ）共催、総領事館後援による日本留学フェアが開催されました。今回は日本から国立・私立大学、専門学校、及び語学学校等の約50の機関が参加し、ブース内でカリキュラムや奨学金制度等について説明が行われ、1,400名を超える当地高校生や大学生、保護者等が参加しました。当館からは国費留学ブースを設置した他、開会式に総領事が出席し「本留学フェアは当地における日本留学に関する最大のイベント。多くの日本教育機関が参加してくださり、約9万4千名という全国2位の日本語学習者を誇る東ジャワ州を管轄する総領事館として嬉しく思う。国交60周年である本年の本フェアを通じて更に多くの学生が日本に留学し、インドネシアと日本の架け橋になっていただけることを祈念している」旨挨拶しました。参加者らは各ブースを回り、各機関による説明に熱心に耳を傾けていました。



開会式の様子



総領事館ブースの様子

★平成30年度外務大臣表彰 表彰状伝達式の実施

10月4日(木)、在スラバヤ日本国総領事公邸において、故ウトロとみ子 東ジャワジャパンプラブ初代事務局員、ジョシ・ハリム 東ジャワジャパンプラブ常任副理事長、ジョジョック・スバルジョ スラバヤ国立大学副学長／教授に対する外務大臣表彰の伝達式が執り行われ、各受賞者の家族・親族や知人、岡野哲郎 東ジャワジャパンプラブ (EJJC) 顧問、佐藤秀哉 同会長、ヤント石井 副会長、徳長邦彦 スラバヤ日本人学校 (SJS) 校長他約40名が出席しました。

冒頭、谷昌紀 在スラバヤ日本国総領事より、今般中部スラウェシ州で発生した大規模地震に係るお見舞いのメッセージが述べられた後、各受賞者の功績が紹介され、祝意と敬意が述べられました。その後表彰状が手渡され、各受賞者から受賞の挨拶が述べられました。EJJC 初代事務局員として83年から96年までの長きにわたり日本人会業務を通じて当地在留邦人の生活の支援に貢献し、本年3月に急逝されたウトロとみ子氏に代わり出席したご主人・ウトロ氏は、日本語とインドネシア語の両言語を交えて受賞の喜びと感謝の意を涙ながらに伝えました。また、SJS 現校舎の設計・工事建設監修を担当し、以降 EJJC 役員を長きに亘り務め許認可関係や法務・税務等でその運営に貢献されたジョシ氏は、奥様と共に同じ大学での国費留学生として日本へ渡った時分を振り返りつつ、留学を通じて日本人の精神性や高度な知識、技術を学ぶことができた、その恩返しとして今後も当地の日本人社会の一助となりたい旨述べました。東ジャワ州における日本語研究者の草分け的存在として日本語教育の普及・発展に寄与されたジョジョック副学長は、偉大な先輩方と共に受賞の機会を頂き60歳の誕生日の思いもよらないご褒美となった、今次受賞を励みとして今後も更に日本語教育の分野を通じ両国関係増進に貢献したい旨述べました。



集合写真

(上段左から：ヤント石井 EJJC 副会長、谷脇弘志 同事務局長、佐藤秀哉 同会長、岡野哲郎 同顧問、徳長邦彦 SJS 校長。下段左から：ジョジョック UNESA 副学長、ジョシ EJJC 常任副理事長、ウトロ氏 (ウトロとみ子 EJJC 初代事務局員夫君)、谷総領事夫妻)



Berjasa...

■ DARI HALAMAN 1

Jepang-Indonesia. Mereka adalah Ny Tomiko Oetoro, Joshie Halim, dan Prof Dr Djodjok Soepardjo M Litt. "Mereka memberi kontribusi di masing-masing bidang. Walaupun bidangnya berbeda, tapi kami menghargai mereka yang secara 30 tahun berjasa dalam mempererat hubungan Jepang-Indonesia," jelas Masaki Tani usai memberi penghargaan.

Meski ketiga tokoh ini adalah orang Indonesia dan Jepang, tapi baginya mereka adalah warisan persahabatan Jepang-Indonesia. Maknanya dengan penghar-

gaan ini, akan menginspirasi generasi berikutnya untuk tetap menyanggah persahabatan Jepang-Indonesia. "Kami harap ini tetap terjaga hubungannya," katanya. Ketiga tokoh dari Jatim ini mendapat penghargaan ini tak lepas dari jasanya. Seperti Ny Tomiko Oetoro, meski baru saja wafat pada Maret lalu, dia berjasa terhadap Perikumpulan Jepang Jawa Timur (PJJT) atau East Java Japan Club Sejak 1983 hingga 1996, dia mengurus administrasi PJJT sehingga jadi kamus hidup masyarakat Jepang di Jatim.

Remedian tokoh lain adalah Joshie Halim. Dia adalah alumnus S1 dan S2 arsitektur di Universitas

Negeri Yokohama dan S3 di Universitas Toiyo. Jasanya adalah terkait proses pembangunan gedung Sekolah Jepang Surabaya pada 1956. "Selain itu, selama 20 tahun, beliau adalah Wakil Ketua Pembina PJJT dan Wakil Ketua Pengurus Pemeliharaan Sekolah Jepang Indonesia," urainya. Yang terakhir adalah Prof Djodjok Soepardjo. Dia menyelesaikan S2 dan S3 bahasa dan sastra Jepang di Universitas Nagoya Jepang. Dia adalah perintis peneliti bahasa Jepang di Jatim, sekaligus mendirikan kursus bahasa Jepang NICE Center di Surabaya pada 2000.

Terakhir penghargaan itu,

apresiasi positif diutarakan mereka. Seperti Joshie Halim, yang merasa bangga dan senang dengan penghargaan ini. Dia merasa makin terpacu semangatnya untuk tetap aktif membantu membatani hubungan Jepang-Indonesia. "Saya tetap berkomitmen menjaga hubungan Jepang-Indonesia," urainya. Begitu pula Prof Djodjok Soepardjo. Dia sangat bahagia dengan penghargaan itu, dan makin semangat meningkatkan kerja sama Jepang-Indonesia. "Saya berharap hubungan Jepang-Indonesia lebih erat lagi, dan saya senang tetap membantu agar hubungan terjaga," pungkasnya. (sudharma adi)